

## 閉会式の様子

福島学院大学 宮代キャンパスの千葉記念ホールで閉会式が行われ、2日目に行われた各分科会の発表があり、参加者一同で共有しました。中央委員会から総括報告があったのち、引継式が行われ、第59回全青研 in 岐阜の実行委員会より来年に向けての挨拶がありました。

### 海外派遣報告



### 入門講座



### 第1分科会 「暮らし」



### 第2分科会 「労働」



### 第3分科会 「災害」



### 第4分科会 「人権」



### 第5分科会 「スポーツ」



### 総括報告



### フィナーレ



福島県の実行委員



根本実行委員長を労う山村実行委員長



岐阜県の実行委員

来年は  
岐阜県

全青研新聞 in ふくしま



速報

第15号

2024年  
11月2～4日

## 3.11 震災ツアー

2024年11月4日 12時半～19時半

オプションツアーとして、震災遺構 浪江町立請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館を38名の参加者が訪れました。校舎をはじめさまざまな展示、手話言語による語り人を見ることが大地震・大津波の脅威を感じられたことと思います。その思いを地元を持ち帰っていただき、各地で防災、原子力発電について考えるきっかけとなれば幸いです。



13年前の地震がどんなふう起きたのか、知りたいと思い、なんとなく…の気持ちで参加しました。バスの車内から見ると何事もなかったような街並み。けれども請戸小学校に着いたときにここだけが時間が止まっていると感じました。被災した時の姿をそのまま残したい、という気持ちが伝わりました。自分にできることはなにか日々の生活で考えていきたいです。

(岐阜、野田智士)



伝承館や語り人のお話から、原子力災害ははまだ終わっていないこと、それを私たちが地元に戻って周りの人に伝えていかなければならないと感じました。(埼玉、鈴木佳奈英)

会津出身なのですが、被災地に来たことがなく、今の様子を知りたくてツアーに申し込みました。原発事故の後、情報がないなかで避難を続けなければならなかった苦しさを改めて知りました。日本のどこに住んでいても電力は必要で、暮らしのためには原発も大切です。けれどもその危険性を知ること不可欠なのだと感じました。ここに来られて本当に良かったです。

(埼玉、青木瑠奈)



### ▪ 請戸小学校

鳥肌が立ちました。2階の床面まで到達した津波で、天井が剥き出しになり、そこに絡まった本が、1階がまるごと津波にのまれたことをまざまざと示していました。避難時の状況やエピソードの展示を見ることができ、数々の奇跡があったことが伝えられていますが、学校の備えや判断、子どもたちの連帯があったから奇跡に手が届き、全員が助かったのだと思いました。自分が被災した時に適切な避難行動が取れるでしょうか。普段からの備えと協力が重要だとわかりました。



### ▪ 原子力災害伝承館

地震被害にあった家の片付けさえ満足にできないまま何年も帰れず、住み慣れた土地での生活と未来を、人との繋がりを断ち切る。展示と語り部の方のお話から、原子力災害とはそういうことなのだとわかりました。しかも、津波の時の危険性が想定されていたのに対策を怠ったことによる人災です。各施設の展示を見て、想定し計画

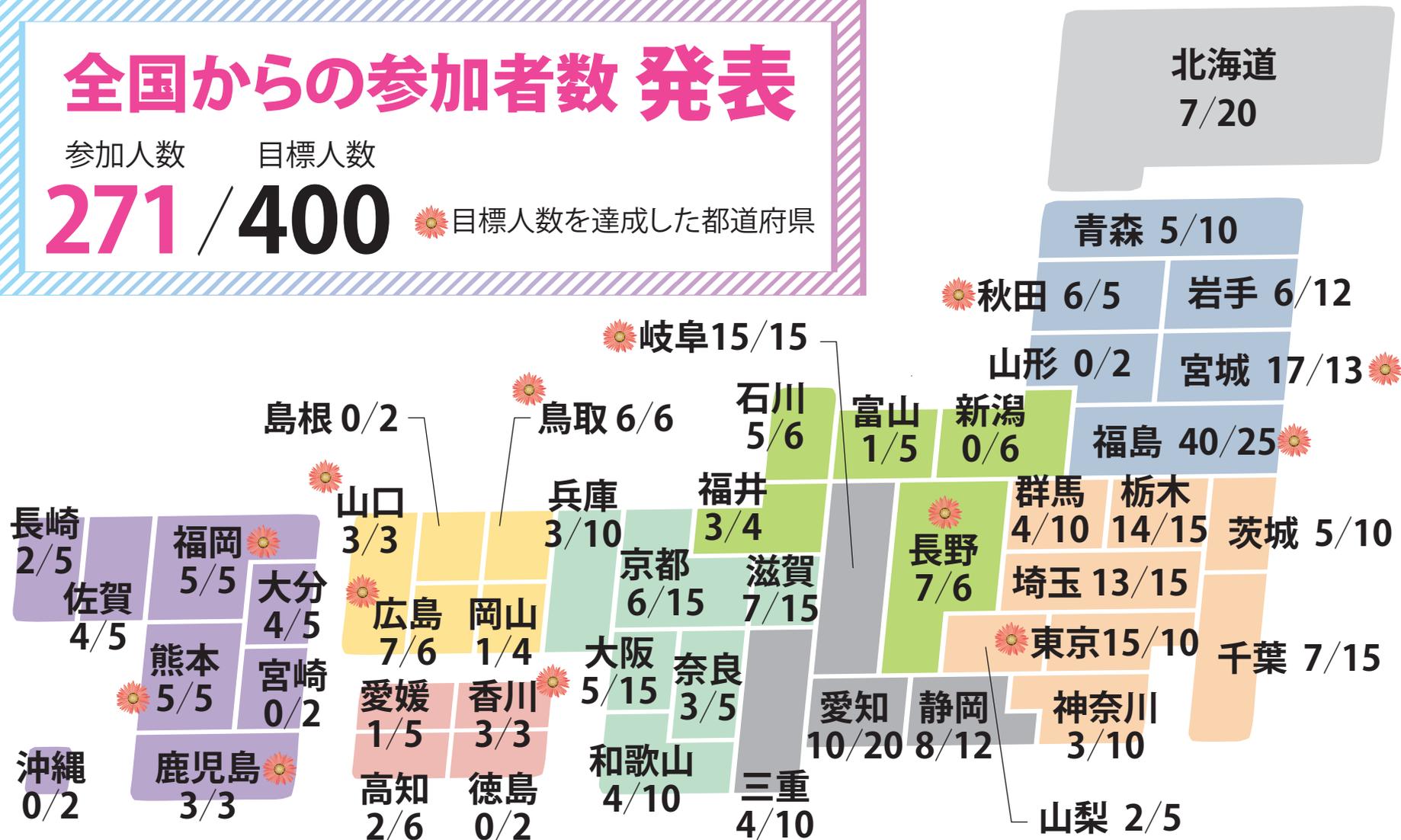


して備えることが、1人でも多くの命を守る防災と減災に直結するのだと思いました。きこえない立場でしなければいけないことは何か、考えたいです。

(鳥取、阪本こゆき)

# 全国からの参加者数 発表

参加人数 目標人数  
**271 / 400**  目標人数を達成した都道府県



全国からたくさんのご参加ありがとうございました!!